京都放送（KBS京都）

海と日本プロジェクト in京都

一般社団法人海と日本プロジェクト in京都

オール京都で取り組むごみのポイ捨て問題

オリジナルのリュック型ごみ箱「 BlueBox」を作成・活用したごみ拾い活動を通じてオール京都で海洋ごみ問題に取り組んだ。その中でも、宇治市内の中学校で海洋ごみの現状について学ぶ出前学習や Blue Boxを使ったごみ拾いでは、宇治市との連携の継続によって学校からの反応もより良いものとなっており、徐々にそのムーブメントを広げていくということに手ごたえを感じた。そのほか、日本三大祭りの「祇園祭」や、西日本最大級のマンガ・アニメイベントである「京まふ」会場周辺にて人気コスプレイヤーの方にごみ拾い活動に参加していただくことで会場での注目を集めるなど、継続していくこと、新しいエッセンスを加えることで、ごみ拾い活動の大切さや海洋ごみ削減をより広く訴えることができた。

2024年度 実施状況について

祇園祭連携モデル

概要 祇園祭ごみゼロ大作戦との連携（リユース食器の活用、屋台一帯の清掃活動）、ごみの分別、うちわ配布

目的 1日で数十万人が訪れる宵山期間でのごみの減量と、発生するごみの分別を促す。

アピールポイント 世界から注目される祇園祭でのごみ拾い活動。外国人には珍しく映るらしく好評だった。

効果 指標とした数字：ごみ拾い参加者、回収ごみ量、うちわ配布数
検証方法：ごみゼロ大作戦のデータ、祇園祭パーク来場者カウント
見られた成果：全体の廃棄物量31760kg(昨年の約1/2に減少）

BlueBox活用ごみ拾い

概要 嵐山版BlueBoxを作成し、活用するごみ拾いイベントを嵐山商店街で開催。

目的 ごみ拾い活動の気軽さなどをPRするとともに、地域の方だけでなく観光客へのPRを推進する。

アピールポイント ご当地キャラとコラボしたBlueBoxと、そのキャラクターとのごみ拾い活動。

効果 指標とした数字：参加者/観光客の人数、集まったごみの量
検証方法：イベント実施時のカウントとごみの量・内容の記録
見られた成果:地域住民の目の届かないエリアにポイ捨てごみが多く見られた。

京まふ連携モデル

概要 BlueBoxとプロジェクトの展示紹介、コスプレイヤーの方々と会場周辺のごみ拾い、ごみ回収ブース設営

目的 会場に集まるマンガ・アニメファンの方々に海洋ごみ削減とごみ拾い活動をPRする。

アピールポイント コスプレイヤーとのごみ拾いをすることで、京まふ参加者から注目を浴びた。

効果 指標とした数字：来場者数、集まったごみの量
検証方法：集まったごみ袋数、ブースでの来場者の反応
見られた成果:70ℓごみ袋17袋分（ペットボトルが多い）回収

教育機関 (学生)連携モデル：宇治市

概要 宇治市まち美化推進課と連携し、出前授業と清掃活動を市内の中学校と実施。

目的 内陸地である宇治市で海洋ごみ問題について啓発を行い、これからを担う子どもたちにも認識してもらう。

アピールポイント 宇治市環境フェスタ、京都府環境フェスティバルへのコラボブース出展。

効果 指標とした数字：参加校2校に増やす
検証方法：宇治市内中学校へヒアリング
見られた成果：参加校から、この取り組みの継続打診があった。

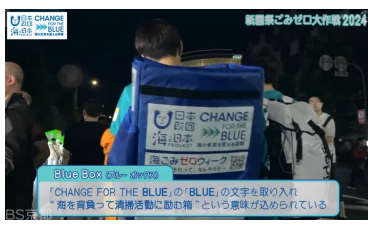
その他事業：スポ GOMI甲子園・ワールドカップ

海ごみゼロウィーク（清掃活動）

清掃活動参加人数 271944人　**箇所数** のべ36箇所

アピールポイント 海洋ごみ問題も身近である京都北部の京丹後市、舞鶴市、宮津市をはじめ、内陸部である京都市、亀岡市など各エリアで積極的にごみ拾い活動が行われている。「京都の街はごみが少ない」と言われる大きな要因づくりに貢献している。

メディア露出



メディア露出本数 12本

アピールポイント 各イベントの概要と参加者のインタビューを中心に1日密着した映像を放送した。
特に自治体と連携したものは、自治体から活動の宣伝として映像の使用の打診など頂いており、映像による啓発活動にも繋がっている。

2024年度の課題とこれからの展望

京都府内において清掃活動は各所で日々実施されていることも多く、ごみ拾いの際出る声として「思っているよりごみが少ない」「京都の街はきれい」というものが多い。しかし、祇園祭といった大きなイベントや人気観光地では、ごみのポイ捨てや放置の問題も大きくなっており、現地の方々がごみ拾いをしても追いつかないといった現状もあることを活動を通して痛感した。大きなイベントやエリアにおいて、ごみ問題に対する啓発活動には自治体との強い連携が必要不可欠であり、より拡散力のある活動を進めていく必要がある。来年度はこれまで築いてきた自治体との関係を強化し、ごみ問題への意識を自分ごととして捉える活動と、内陸エリアの多い京都で海洋ごみ問題への関心を高めていきたいと思う。